

乳がんの再発と診断されたら…

乳がんの再発・転移には 局所再発と遠隔転移の 2 つの形式があり、それぞれ治療の考え方が異なります。

局所再発とは、術後の患側乳房や腋窩リンパ節に乳がん細胞がしこりを作ることであり、遠隔転移とは、骨、肺、肝、遠隔リンパ節など他臓器に乳がん細胞が腫瘤を形成する場合をさします。

局所再発の治療は、手術による病巣の完全切除を行い、必要に応じて放射線治療や薬物治療を追加して、再度根治を目指します。

遠隔転移の場合には、ほとんどの場合で治癒は望めません。治療の目標は、がんの勢いを抑えてより長く普通に生活を続けることです。したがって、治療による生活の質の低下をあまり起こさずにできる副作用の少ない治療を選択し、乳がんによる症状を緩和するということになります。薬物療法、放射線療法、必要時は手術も含めて、治療効果と副作用のバランス、全身の状態や遠隔転移の状態を見ながら治療を選択します。

患者さまご自身の価値観も大切です。何を優先するか相談しながら診療を行います。

